

「子孫のために、自分のために」

香川大学教育学部附属高松中学校 2年 加藤 美羽さん

平成26年8月20日、広島市で起きた土砂災害を覚えているだろうか。集中豪雨によって起きた大規模な土砂災害により、災害関連死を含め死者は77人、負傷者は44人、133棟の建物が全壊した。

この土砂災害が起きたとき、私は広島市に住んでいたから、知った時の衝撃は大きかった。自分のすぐ近くで起きていたと思うと恐ろしかった。そして、正直、自分が住んでいる所で起こらなくて良かったと思ってしまった。私が住んでいた地域も山の近くで被害が出ていてもおかしくなかったし、何も備えていなかったからだ。

もしもの時のために備えている人はどのくらいいるのだろうか。飲料水、乾パンや缶詰などの非常食、通帳や保険証、現金、懐中電灯、衣類……。もっとたくさんあるが、これを何かあってから急いで準備するのはおそらく不可能だろう。やはり、必要な物を全部1つにまとめておくと良いと思う。

さて、どうして土砂災害は起きるのだろうか。どうすれば土砂災害は防げるのだろうか。

土砂災害を引き起こす大きな原因は雨だ。日本は世界の中でも降水量が多い。しかも日本の雨は梅雨や台風、秋雨の季節にまとまって大量に降るから、この時期に土砂災害も起きやすいそうだ。

また、山地が多く、もろい地質の山が多いことも原因の1つだ。雨や風でくずれたりしやすいそうだ。

土砂災害を防ぐ方法として、雨をふらせないようにすることはできないが、くずれないようにすることはできるのでないかと考える。実際に、各地で砂防ダムの建設が進んでいる。また、木を植えることも土砂災害の防止につながると私は思う。木の根は山を支える大きな役割を担っているからだ。これまで、人間はたくさん木を伐採してきた。その影響が今、じわじわと出てきているのではないだろうか。もちろん、木を植えてもすぐに土砂災害がなくなるわけではない。木が山を支えられるくらいに大きくなるには長い年月が必要だ。しかし、自分たちのためだけでなく、子孫のためにも安全な暮らしをつくるのが、「先祖」としての私たちの義務だと思う。土砂災害の防止のために、私たちが行動を起こすべきだ。

そして、土砂災害がたびたび起こる今に生きている私たちは、自分の命を守ることも考えなければならない。子孫のために土砂災害防止に取り組むこと、自分のために災害に備えることの2つを考え、実行することが大切だと思う。